

(案)

番 号
年 月 日

原子力規制委員会 殿

原子力委員会

関西電力株式会社高浜発電所の発電用原子炉の設置変更許可（1号
及び2号発電用原子炉施設の変更）について（答申）

令和4年11月2日付け原規規発第2211022号をもって意見照会のあ
った標記の件に係る核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第
43条の3の8第2項において準用する同法第43条の3の6第1項第1号に
規定する許可の基準の適用については、別紙のとおりである。

(別紙)

関西電力株式会社高浜発電所の発電用原子炉の設置変更許可申請書
(1号及び2号発電用原子炉施設の変更)に関する核原料物質、核
燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の6第1項第
1号に規定する許可の基準の適用について

本件申請については、

- ・ 発電用原子炉の使用の目的が商業発電用のためであること
- ・ 使用済燃料については、原子力発電における使用済燃料の再処理等の実施に
関する法律(以下「再処理等拠出金法」という。)に基づく拠出金の納付先
である使用済燃料再処理機構から受託した、核原料物質、核燃料物質及び原
子炉の規制に関する法律に基づく指定を受けた国内再処理事業者において再
処理を行うことを原則とし、再処理されるまでの間、適切に貯蔵・管理する
ということ
- ・ 海外において再処理が行われる場合は、再処理等拠出金法の下で我が国が原
子力の平和利用に関する協力のための協定を締結している国の再処理事業者
において実施する、海外再処理によって得られるプルトニウムは国内に持ち
帰る、また、再処理によって得られるプルトニウムを海外に移転しようとする
ときは、政府の承認を受けるということ

等の諸点については、その妥当性が確認されていること、加えて我が国では当
該発電用原子炉も対象に含めた保障措置活動を通じて、国内のすべての核物質
が平和的活動にとどまっているとの結論を国際原子力機関(IAEA)から得
ていること、また、本件に関して得られた全ての情報を総合的に検討した結果
から、当該発電用原子炉が平和の目的以外に利用されるおそれがないものと認
められるとする原子力規制委員会の判断は妥当である。